



Title	京都の寺社に求められるユニバーサルデザイン研究 : 観光地におけるサイン計画ガイドラインの提案
Author(s)	山本, 筆子; 久保, 雅義
Citation	デザイン理論. 2007, 50, p. 184-185
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53050
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

京都の寺社に求められるユニバーサルデザイン研究 ～観光地におけるサイン計画ガイドラインの提案～

The Necessary of universal design for temples and shrines

山本筆子・久保雅義／京都工芸繊維大学

1. 研究背景と目的

国内外を問わず、毎年4,550万人を超える観光客が訪れる京都は、歴史や文化、自然等、魅力要素を多大にもつ。修学旅行生から高齢者、外国人観光客と様々な観光客に対して、京都の魅力要素を存分に発信することができているであろうか。京都観光の代表格ともいえる寺社に着目し、UDの観点から現状調査、解析を行い、寺社におけるUDガイドラインを提案する。

2. 京都の寺社のUDの現状

2-1. 調査概要

寺社の来訪客の観光目的や満足要因を探るにあたり、インターネットによるアンケート調査（N=168 選択回答式 複数回答可）を行った。また、a) 鹿苑寺金閣、b) 北野天満宮、c) 南禅寺、d) 清水寺の境内において、車椅子被験者1名、外国人被験者1名によるフィールド調査を実施した。

2-2. 現状分析

インターネットによるアンケート調査から、観光客は、寺社の雰囲気を感じ、歴史的建造物を知り、学ぶことを観光目的とし、これらが満たされることが満足につながるという。

フィールド調査によると、UDの観点からみる寺社には、以下の5つのバリアが存在することがわかった。

- ① 物理面のバリア…ex) 段差や砂利道
- ② 情報面のバリア…ex) 看板の劣化や情報不足
- ③ 心理面のバリア…ex) 慣れない土地での不安感
- ④ 文化面のバリア…ex) 境内に存在する世俗的なもの
- ⑤ 制度面のバリア…ex) 文化財故に改修困難

特に、境内での順路案内から解説にいたるまで、情報発信が円滑に行われていないこと

が、観光客の不満につながっていることがわかった。

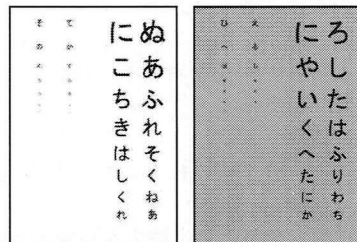
各寺社が独自の判断によって、看板、トイレ、休憩所等の設備を設置していることが、煩雑な印象をあたえ、観光客にとってわかりづらいものとさせている。

寺社のインフラ整備に関するUDガイドラインを作成し、寺社に必要とされるUDの姿を明確化する必要がある。

3. 文字フォント・明度コントラスト視認性実験

3-1. 実験概要

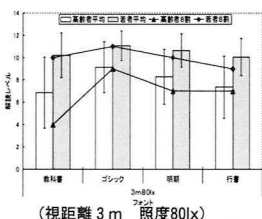
寺社の看板の視認性に、文字フォントや明度コントラストの変化が、どのように影響を与えているのか、若者（20～30歳）14名、高齢者（65～80歳）14名の被験者による実験を行った。照度80lx, 300lx, 視距離1m, 3mの条件下で、解読レベルごとに文字スケールの異なるかな文字視標を用いて行う。



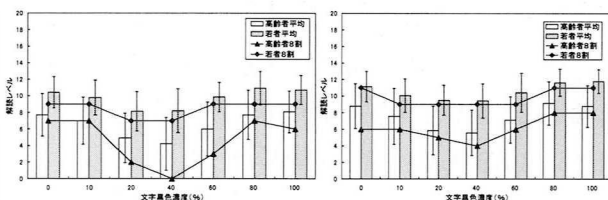
図表1 実験視標例



図表2 実験風景



図表3 フォント別読取レベル比較例



図表4 明度コントラスト比較例

3-2. 実験結果

一番視認性に優れているフォントは、どの条件下においてもゴシック体であることがわかる(図表3)。

若者に比べ、高齢者の読取できるレベルは、平均的に3段階低い。特に、明度コントラストが弱い条件では、著しく読取レベル差が表れる(図表4)。背景と文字の黒色濃度差が30%以下のほとんどが、高齢者にとって読取できるコントラストではないことが確認できた。

また、高齢被験者においては、視距離が離れると、照度の違いによる視認性のレベル変化が顕著に表れた。

4. 寺社看板における視認性ガイドライン提案

4-1. 文字フォント別文字スケールガイドライン

それぞれのフォントに必要とされる文字スケールの遵守基準、推奨基準を提案する。遵守基準は、視認性実験において、高齢者と若者の8割の被験者が読取できるレベルの平均読取レベル値を、推奨基準は、高齢被験者の8割が読取できるレベル値を文字スケール値に直したものと(図表5)。

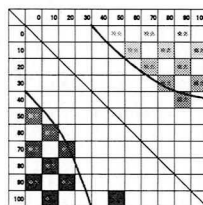
視距離	照度	フォント	文字スケール	
			遵守基準	推奨基準
1m	80lx	教科書体	5mm以上	7mm以上
		ゴシック体	4mm以上	5mm以上
		明朝体	4mm以上	5mm以上
	300lx	教科書体	4mm以上	7mm以上
		ゴシック体	3mm以上	4mm以上
		行書体	4mm以上	5mm以上
3m	80lx	教科書体	17mm以上	28mm以上
		ゴシック体	9mm以上	11mm以上
		明朝体	14mm以上	17mm以上
	300lx	教科書体	11mm以上	17mm以上
		ゴシック体	9mm以上	14mm以上
		行書体	11mm以上	14mm以上

図表5 文字スケールガイドライン

4-2. 明度コントラストガイドライン

視認性実験において、4パターンの条件下のうち、3つ以上のパターンで視認性に優れたものを選出し、近似曲線を描く(図表6)。近似曲線上の明度コントラスト以上の黒色濃度差をもつものを明度コントラスト遵守基準

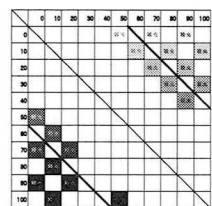
とする(図表7)。また、遵守基準の中でも、黒色濃度差70%以上もつもの(図表8)を、明度コントラスト推奨基準(図表9)とする。



図表6 視認性に優れた明度コントラスト

背景黒色濃度	文字黒色濃度	黒色濃度差
0%	50%以上	50%以上
10%	60%以上	50%以上
20%	70%以上	50%以上
30%	80%以上	50%以上
40%	90%以上	50%以上
50%	0%	50%以上
60%	10%以下	50%以上
70%	20%以下	50%以上
80%	30%以下	50%以上
90%	30%以下	60%以上
100%	30%以下	70%以上

図表7 明度コントラスト遵守基準



図表8 黒色濃度差70%以上の明度コントラスト

背景黒色濃度	文字黒色濃度	黒色濃度差
0%	70%以上	70%以上
10%	80%以上	70%以上
20%	90%以上	70%以上
30%	100%	70%以上
70%	0%	70%以上
80%	10%以下	70%以上
90%	20%以下	70%以上
100%	30%以下	70%以上

図表9 明度コントラスト推奨基準

5. 考察と今後の課題

伝統を重要視する寺社は、UDを導入することが遅れている。本研究では、誰でも読みやすい寺社看板の文字フォント、明度コントラストに関する具体的な条件と数値を示したガイドラインを創出し、寺社を訪れる観光客の不満を解決し、望まれる観光の糸口を見出すことができた。

今後の課題としては、寺社にUDを導入して、様々な課題を解決することで観光客の満足度を高めていくことが重要である。

主要参考文献

- [1] 観光地域づくり案内標識委員会「観光地のためのひとめでわかる案内標識」, 2005
- [2] 国土交通省総合政策局「観光活性化標識ガイドライン」, 2005
- [3] 西川潔「屋外広告の知識2 デザイン編」, 2006